

特31  
238

近江

滋賀郡誌

滋賀郡教員組合会編纂

全

025457-000-5

特31-238

滋賀郡誌

滋賀郡教員組合会 / 著

M31

ADC-2911





滋賀郡教育組合會編纂

近江國 滋賀郡誌

大津 南強堂藏

凡例

一 本書ハ小學校ニ於テ授クベキ郷土地理歴史ノ教科用書ニ充テンガ為ニ尋常小學校第四學年兒童ノ學カラ標準トシテ編纂シタルモノナリ

一 本書ハ滋賀郡地理ヲ大綱トシテ史談ヲ其間ニ點綴シ互ニ相関連シテ教授ニ興味ヲ添ヘ兼テ兒童ノ記憶ニ入り易カラシメンコトヲカメタリ

一 山川湖沼等普通ノ地理的名稱ハ既ニ兒童ノ

滋賀郡誌 凡例



理解ニ入リテ畧ボ完全ナル觀念ヲ有スベキ  
 カ故ニ本書中故ヲニ其解説ヲ省畧セリ然レ  
 ドモ實地教授ニ際シ教師ノ特ニ意ヲ用弁テ  
 之ガ正確ナル觀念ヲ構成セシムンコトヲ要  
 スルヤ勿論ナリ  
 一書中所々ニ振假名ヲ施シタルハ一ニ教授上  
 ノ便ヲ圖リタルモノニシテ文字ノ為メ徒ニ  
 時間ヲ消費スルノ憂ヒ無カラシメンガ為ナ  
 リ  
 一本書ハ編纂ノ便宜上南部ヨリ次第ニ北部ニ

及ボシタリト雖其順序ノ先後ハ一ニ教授者  
 ノ便宜ニ任ス  
 一書中小字ヲ以テ記述シタル事項ハ尋常小學  
 補習科ノ兒童若クハ高等小學ノ初學年ニ於  
 テ本書ヲ用弁ルノ場合ニアタリ之ヲ授クル  
 ヲ可ナリトス



近江八景圖



滋賀郡誌

大要

位置

境界

地勢

滋賀郡ハ近江國ノ西南ニアリ、

北ハ高島郡ニツヅキ、西ハ山城國ニ隣リ、東ハ琵琶湖

臨ミ、東南ハ勢多川ヲ以テ栗太郡ニ界ス、

短カク、南北ニ長ク、北方廣クシテ、南方ニ

至リ、從ヒ次第ニ狹シ、

郡中山脈相連ナリ、湖ニ沿フ所僅ニ平地アルノ

ミ、故ニ河水ハ多ク東ニ流レテ湖ニ注グ、其中ナヤ

ルモ安曇川ノ神ノ真野川、和通川、北良川等トス



區劃

全郡ヲ分チテ一町十四

ヶ村トス、大石山ヶ村、膳所村、下坂村、本坂村、本郷村、野村、香立村、和通村、木野村、伊

戸數合

戸數一万三千餘、人口七

万三千八百餘アリ、

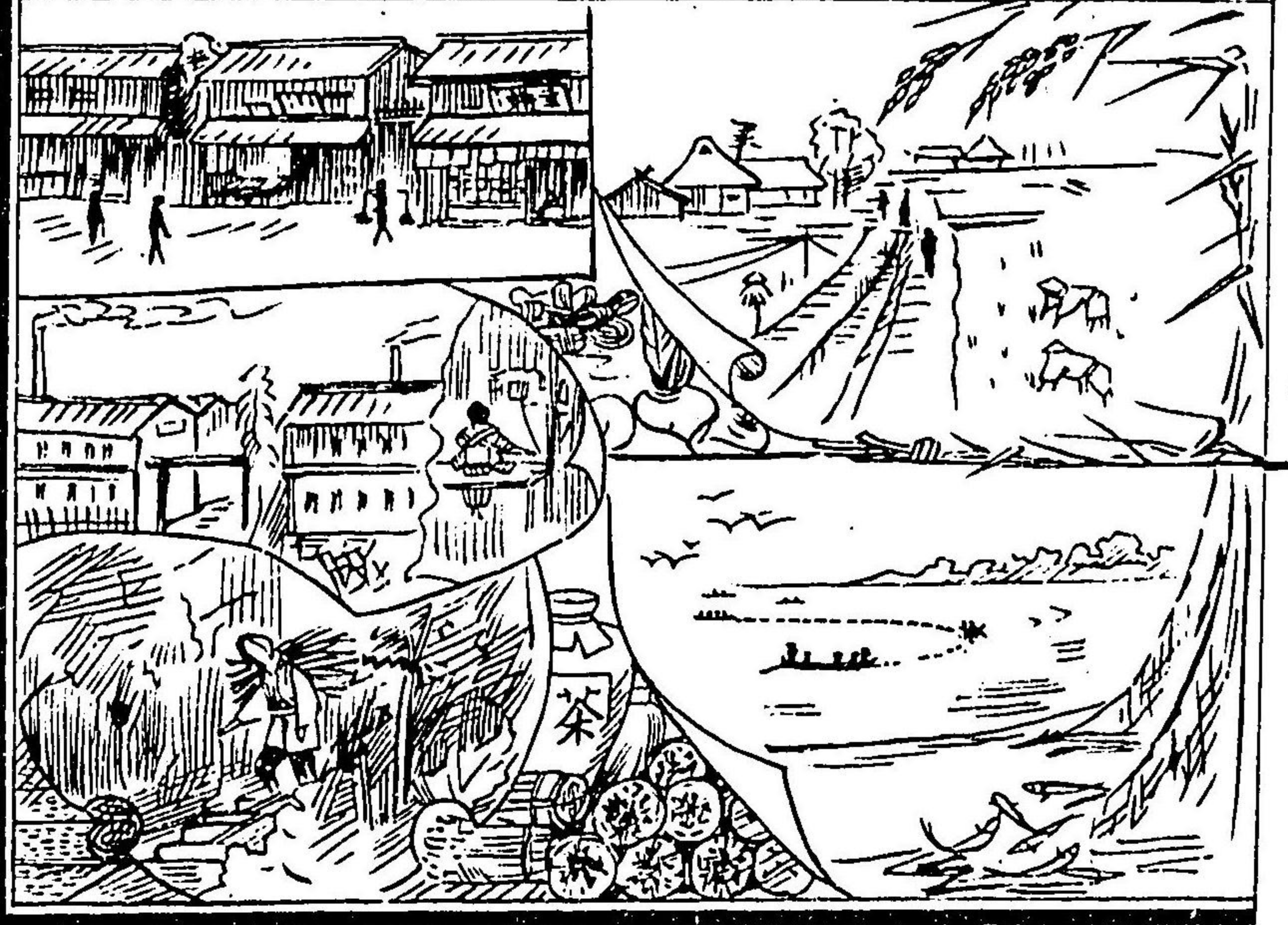
生業

人民多クハ農業ヲツト

ノ、湖邊ニハ漁業ヲナシ、

山間ニハ樵業ヲナスモ

ノアリ、又市街ノ人民ハ



交通

多ク商工ヲ營ム、水陸ノ交通甚便ニシテ、主ナル道路ハ東海道、西

近江路ナリ、

東海道鐵道ハ勢多川ヲ亘リ本郡ヲ經テ西山城國ニ入ル、湖上ノ航路ハ悉ク大津ヨリ起リ、湖邊ノ要地ニ船ヲ寄セザルハナシ、

物産

物産ハ米、生糸、茶、木材、魚類等トス、

土地

カク往來便利ニシテ、物産多キノミナラズ、氣候才ダヤカニ、山水ノ景色殊ニ美ハシク、名所舊跡モ亦少カラズ、マコトニ住ミヨキ土地柄ナリ







門院ニ仕ヘ、詩文ヲ教ヘ奉ル、其著ハシ、源氏物語五十四帖ハ世ニ稀ナル名文ナリ、

國分寺

大字國分ニ國分寺ノ趾アリ、

宇治越

此地ヨリ山城國ニ出ヅル道アリ、之ヲ宇治越ト云フ、

膳所村

位置

膳所村ハ石山村ノ北ニアリ、

湖岸ニ本多氏ノ城趾アリ、今コ、ニ滋賀縣監獄署ヲ置ク、

栗津原

膳所村ト石山村トノ間ノ田野ヲ栗津原ト云フ

勢多ト共ニ有名ナル古戰場ニシテ、近江八景ノ

一ナリ、

源義仲ミナモトヨシナカハ信濃國木曾山キソ中ニ成長シタル人ナ

ルガ、平氏ヲ滅ボサントテ兵ヲ舉ゲ、北國ヨリ

次第ニ都ニ攻メ上リケレバ、平氏ハ 安徳天

皇ヲ奉ジテ西國ニ奔レリ、コレヨリ義仲都ニ

留マリ我儘ノ振舞多カリケレバ、源頼朝ヨリトモ二弟

範頼ノリヨリ義經ヨシツネヲシテ之ヲ討タシム、義仲之ヲ宇治

勢多ニ防ギシガ、戰敗レテ都ヲ落テ、遂ニ栗津

原ニテ其將今井兼平ト共ニ戰死シタリ、栗津

原ノ



田園中ニ今井  
兼平ノ墓アリ、

大津町

位置

大津町ハ、膳所村ノ西北  
ニアリテ湖ニ臨ミ、近江  
國第一ノ都會ニシテ、東  
北ノ諸國ヨリ京都ニ通  
ズル要路ニ當リ、汽車汽  
船ノ便アルヲ以テ、常ニ  
繁盛ナリ、縣廳、裁判所、郡  
役所、警察署、師範學校、  
電信局、尋常師範學校、  
商業學校、銀行、會社等  
アリ

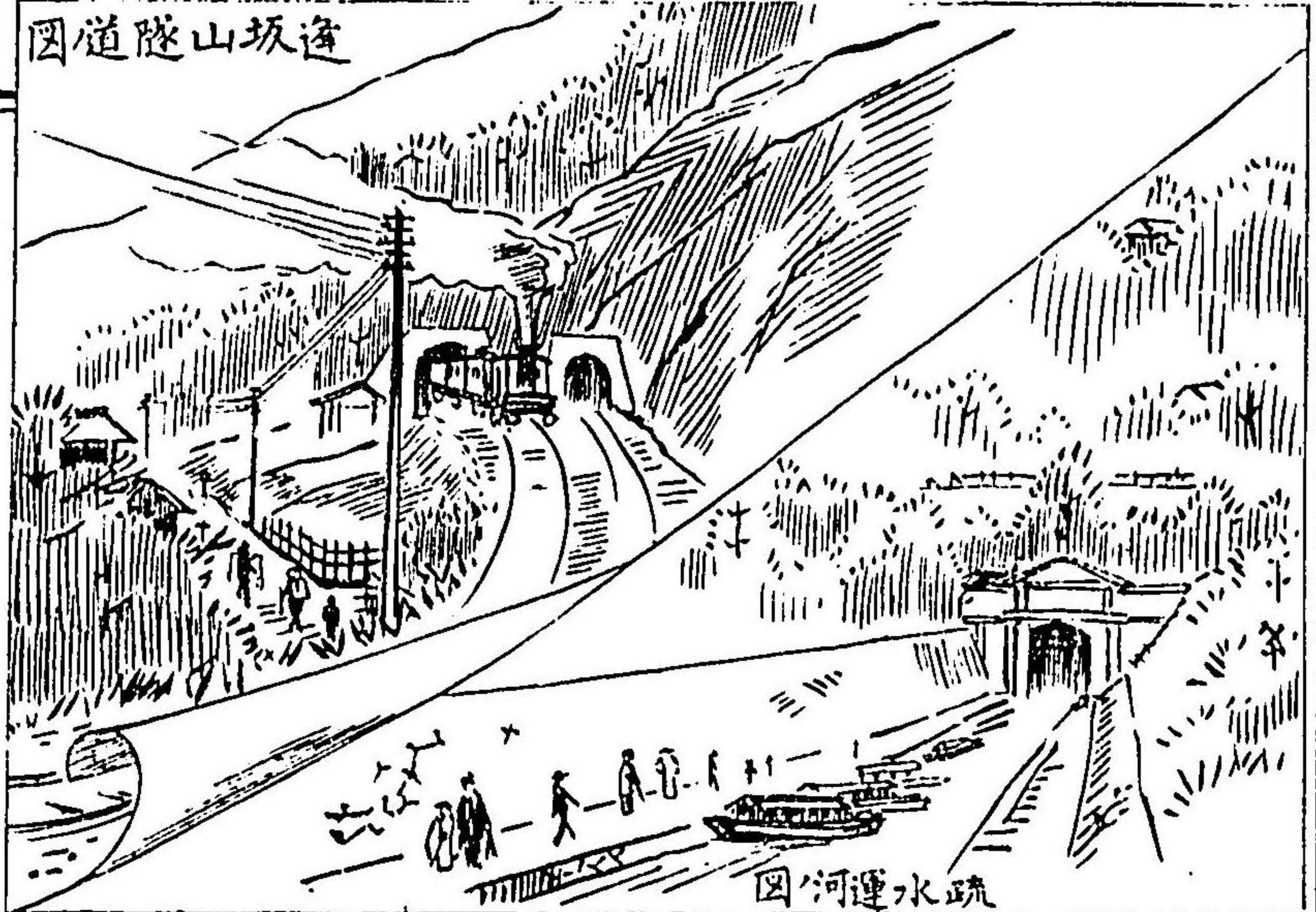


大津町圖

逢坂山

長等山

逢坂山隧道圖



疏水運河圖

逢坂山ハ、町ノ西南方ニ  
アリ、之ヲ越ユレバ京都  
ニ至ルベシ、昔ハ此處ニ  
関ヲ置キ往來ノ人ヲ檢  
セリ、  
山腹ヲ貫キテ東海道鐵  
道ヲ通ス、之ヲ逢坂山隧  
道トス、  
長等山ハ逢坂山ノ北ニ  
連リ、湖山ノ眺ノ甚ダ佳



園城寺

近時山下ヲ貫キテ湖水ヲ京都ニ通ズ、  
此疏水ニ舟ヲ浮ベテ、旅客貨物ヲ運送スルノ便  
アリ、

長等山ノ麓ニ園城寺<sup>ヲシヅヤウ</sup>アリ、一ニ三井寺ト稱シ近

江八景ノ一ナリ、此寺ハ大友<sup>オホトモノヨダ</sup>與多王<sup>オホタノミ</sup>ノ弘文<sup>オホトモノミ</sup>天子<sup>ノミ</sup>ノ

建立ニシテ、有名ノ大寺ナリ、

山陵

弘文<sup>オホトモノミ</sup>天皇ノ山陵<sup>ミヤノキ</sup>及歩兵第九聯隊ノ衛戍<sup>エウジ</sup>モ亦長

衛戍

等山ノ麓ニアリ、

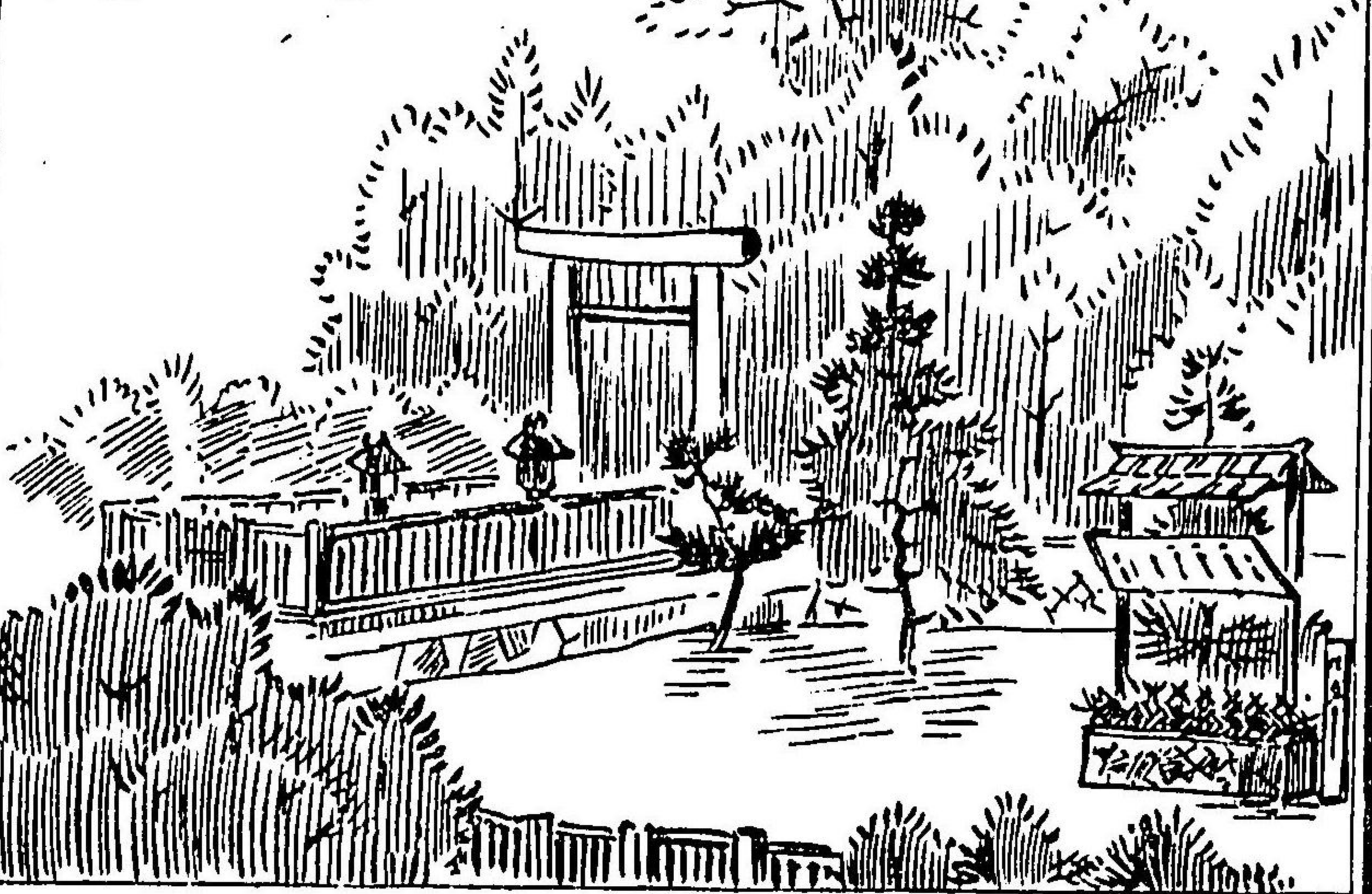
番乱

弘文<sup>オホトモノミ</sup>天皇ハ、天智<sup>テンヂ</sup>天皇ノ御子ニシテ、幼ヨリ

文學ヲ好マセラレ、賢明ノ君ニマシマセシガ、

皇叔大海<sup>オホアヲ</sup>人皇子ト御中宜シカラズ、大海人

弘文天皇山陵圖



皇子兵ヲ擧ゲテ都へ  
攻メ上ラレシニ、官軍  
屢敗レ、天皇親ラ勢  
多ノ橋西ニ陣シテ之  
ヲ防ギ給ヒシモ、御運  
拙久御軍大ニ敗レ、遂  
ニ長等山前ニ崩シ給  
ス、之ヲ壬申ノ乱ト云  
ス、



義仲寺

大字馬場ノ義仲寺ニハ木曾義仲ノ墓及  
俳句ヲ以テ有名ナル芭蕉翁ノ塚アリ、  
大字尾花川ニ蒸菁ヲ産ス、近江蒸菁トテ世  
ニ名高シ又大字馬場ヨリ麻布ヲ製出ス、

滋賀村

位置

滋賀村ハ、大津ノ北ニアリ、

大津宮

村中ニ、天智天皇、弘文天皇ノ皇居タリシ大  
津宮ノ趾アリ、昔志賀都ト云ヒシハ此地ノコト  
ナリ、

天智天皇

天智天皇ハ初ノ中大兄皇子ト申セリ、其頃蘇  
我入鹿トイフ逆臣アリシカバ、中臣鎌足ト謀  
リテ之ヲ誅シ、後御位ニ即カセ給ヒ、中頃衰へ

山中越

此地ヨリ京都ニ出ヅル道アリ、之ヲ山中越ト名  
ツク、  
シ皇室ヲ興シ、深ク民ヲ愛シ給ヒシ有リ難キ  
君ナリ、此 天皇及 弘文天皇ノ御代ヲ近江  
朝ト云フ

下阪本村

位置

下阪本村ハ、滋賀村ノ東北ニアリ、

唐寄

唐寄ハ有名ナル一本松ノアル所ニシテ、近江ハ  
景ノ一ナリ、



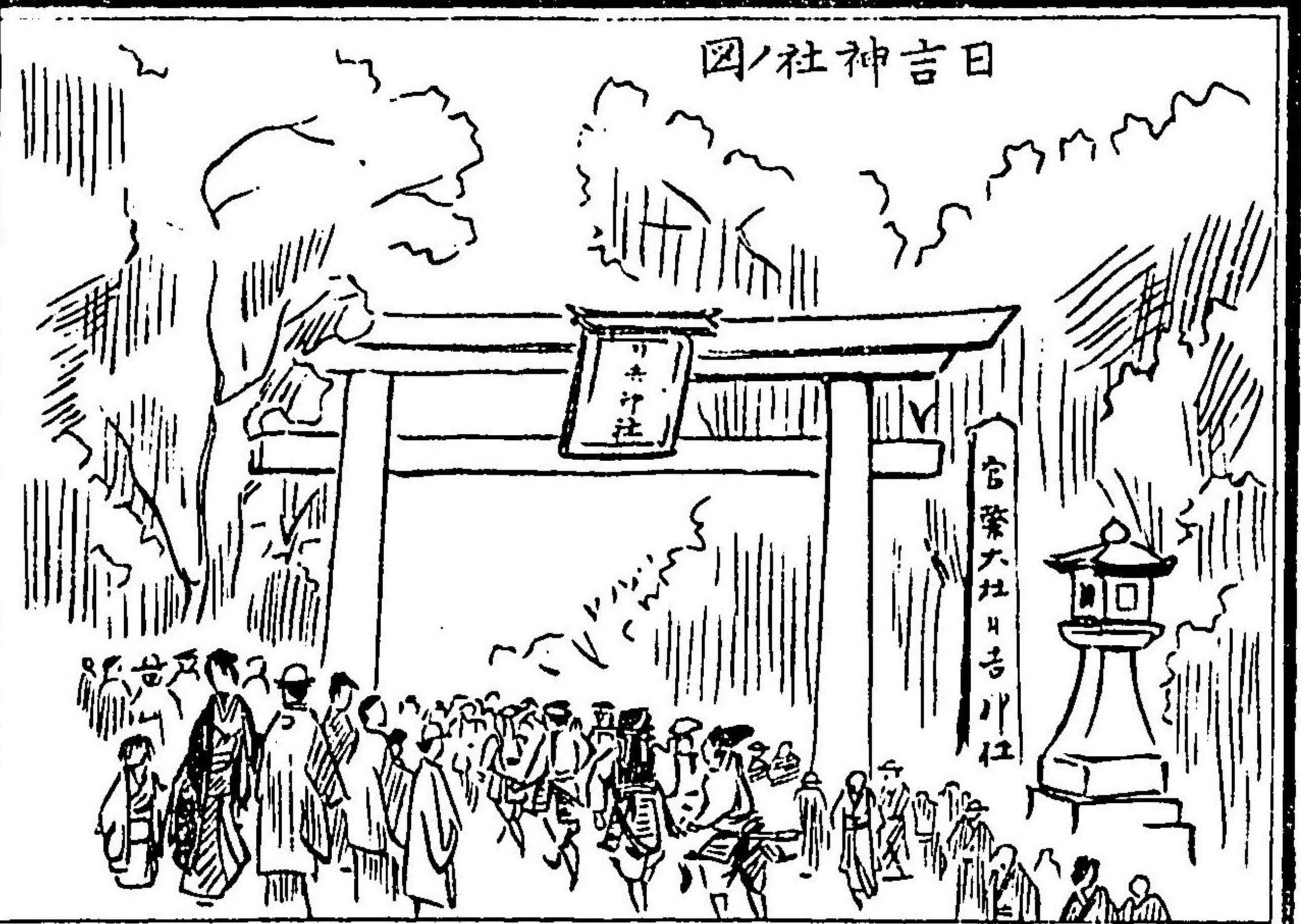
阪本村

位置 阪本村ハ下阪本村ノ西ニアリ、  
 比叡山 比叡山ハ山城國ニ跨ル高山阪路三十七町海抜二千七百二十三尺  
 ニシテ頂上ヲ四明岳ト云フ山中ニ延曆寺アリ、  
 延曆寺ハ有名ナル大寺ニシテ僧最澄サイチヨウ詔ヲ奉  
 ジテ之ヲ建ツ當時三千ノ坊舎アリ、其後僧徒  
 ノ勢熾ニシテ武家モ之ヲ制スルコト能ハザ  
 リシガ、後醍醐天皇ノ時大ニ王事ニ勤メ夕  
 リ、後織田信長ノ燒キ拂フ所トナリ、勢大ニ衰  
 ヘ、今ハ僅ニ主ナル堂宇ノ存スルノミ、

僧最澄

日吉社

日吉神社ノ圖



僧最澄ハ此地ニ生ル  
 幼ヨリ佛法ヲ信ジ僧  
 トナリ、唐ニ渡リテ佛  
 學ヲ修メ歸リテ延曆  
 寺ヲ建テ天台宗ヲ弘  
 ム、死後傳教大師ノ號  
 ヲ賜ハレリ、  
 日吉社ハ比叡山ノ麓ニ  
 アル官幣大社ニシテ大  
 山ヤマ咋クハ大神オホガミヲ祀ル近江第



高穴穂宮

一ノ大社ナリ、  
大字穴太ハ、  
景行、  
成務、  
仲哀三帝ノ皇居夕

雄琴村

位置

雄琴村ハ下阪本村ノ北ニアリ、

仰木村

位置

仰木村ハ阪本雄琴兩村ノ北ニアリ、

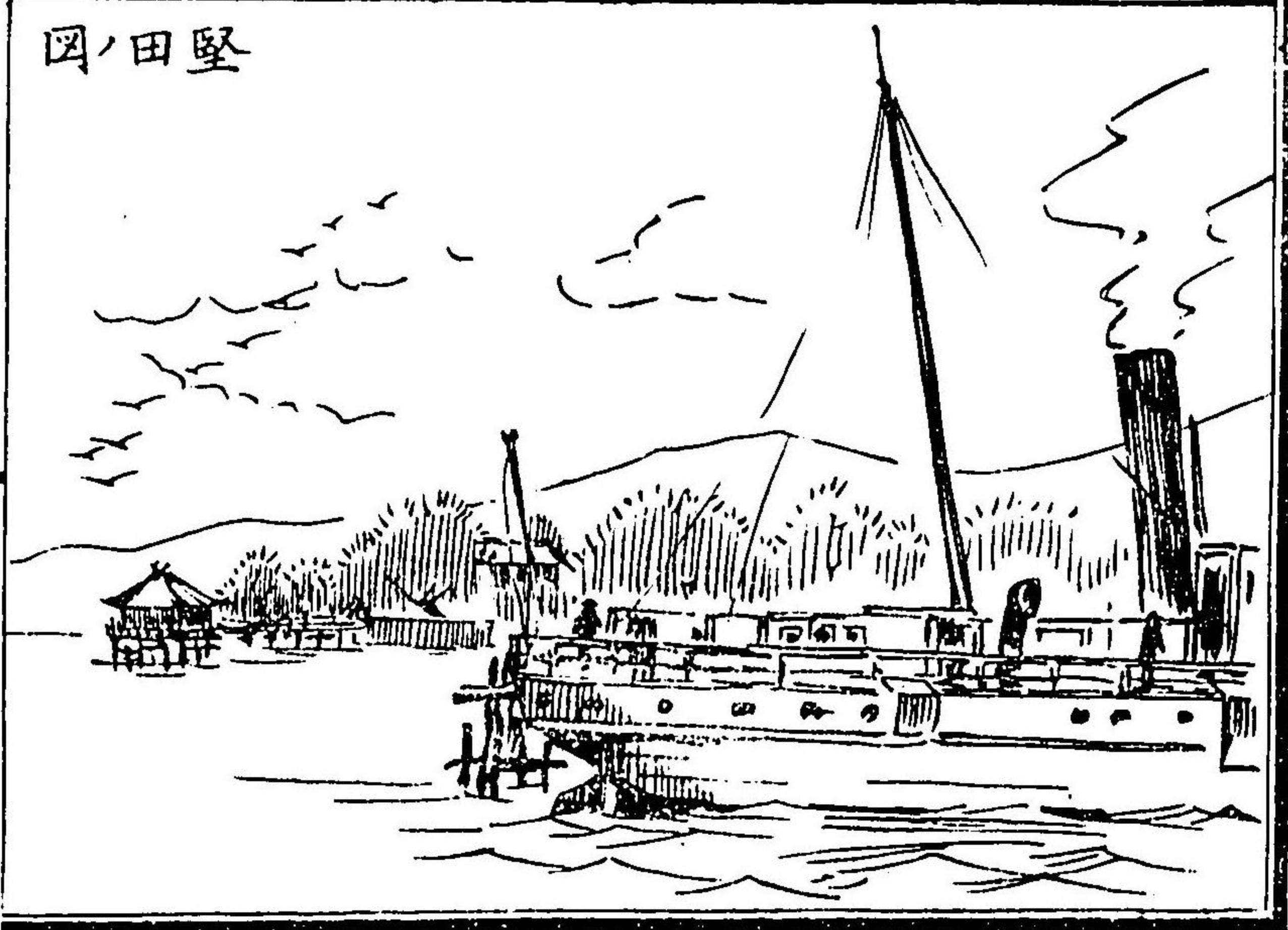
堅田村

位置

堅田村ハ雄琴村ノ東北ニアリテ、  
大津區裁判所出張所、  
大津警察署分署、  
郵便局、  
電信局アリ、

浮御堂

此地湖中ニ突キ出テ野洲郡ノ野洲岨マデノ間、湖上僅ニ十七町許ナリ、之ヲ琵琶湖中ノ最狭キ所トス、  
浮御堂ノ惠心僧都ハ景色甚ダ佳シ、  
近江八景ノ一ナリ、  
大字今堅田ニ勾當内侍ノ墓アリ、  
内侍ハ藤原經尹ノ女ニシテ、  
新田義貞ノ夫人ナリ、  
北



堅田ノ因



國ヨリ京都ニ歸ラントスルトキ、義貞ノ戦死セルコトヲ聞キテ大ニ悲ミ、遂ニ湖水ニ投ジテ死セリ

真野村

位置 真野村ハ堅田村ノ北ニアリ

産物 此地及ビ堅田村ヨリ筵ヲ産スルコト多シ

伊香立村

途中越 伊香立村ハ真野村ノ西、仰木村ノ北ニアリ

若狭國ヨリ此地ヲ經テ京都ニ通ズル道アリ之

ヲ途中越ト云フ

和邇村

位置 小野孿

和邇村ハ真野村伊香立村ノ北ニアリ

小野妹<sup>オノイモ</sup>子<sup>コ</sup>ハ昔、推古天皇ノ御代ニ、初メテ支

那ニ使セシ名高キ人ニシテ、此地ニ住ミタル

コトアリト云フ

木戸村

位置 木戸村ハ和邇村ノ北ニアリ

比良山ハ湖西第一ノ高山海拔四千二百尺ニシテ、春ノ

末ニ至ルマデ雪ヲ戴ク近江八景ノ一ナリ

小松村

位置 小松村ハ木戸村ノ北ニアリテ、滋賀郡ノ北端ニ



楊梅瀧

アタリ北ノ方高島郡ニ  
連レリ、  
楊梅瀧ハ比良山ノ麓ニ  
アリ、高十五丈、幅二丈ニ  
近シ、近江第一ノ大ナル

雄松寄

瀧ナリ、  
雄松寄ハ村ノ南方ニア  
リ、雄松寄ハ村ノ南方ニア  
景色絶  
佳、色リ絶  
明、神ノ村ノ北端ニア  
リ、白鬚神社ニ名高シ、  
此地及ビ和邇村辺ノ湖

小松湖邊圖



位置

若狭街道

安曇川



中ヨリ氷魚ヲ産ス、

葛川村

葛川村ハ比良ノ山間ニ  
アリ、天北ハ高島郡ニ連  
リ、山高ク水清シ、  
土地山間ニアリト雖若  
狭街道ニ當レルヲ以テ  
旅人ノ往來少カラズ、  
安曇川ハ北ニ流レテ高  
島郡ニ入ル、筏ヲ浮ベ木



産物

材ヲ流シ下スニ便ナリ、  
炭ヲ産出スルコト多シ、

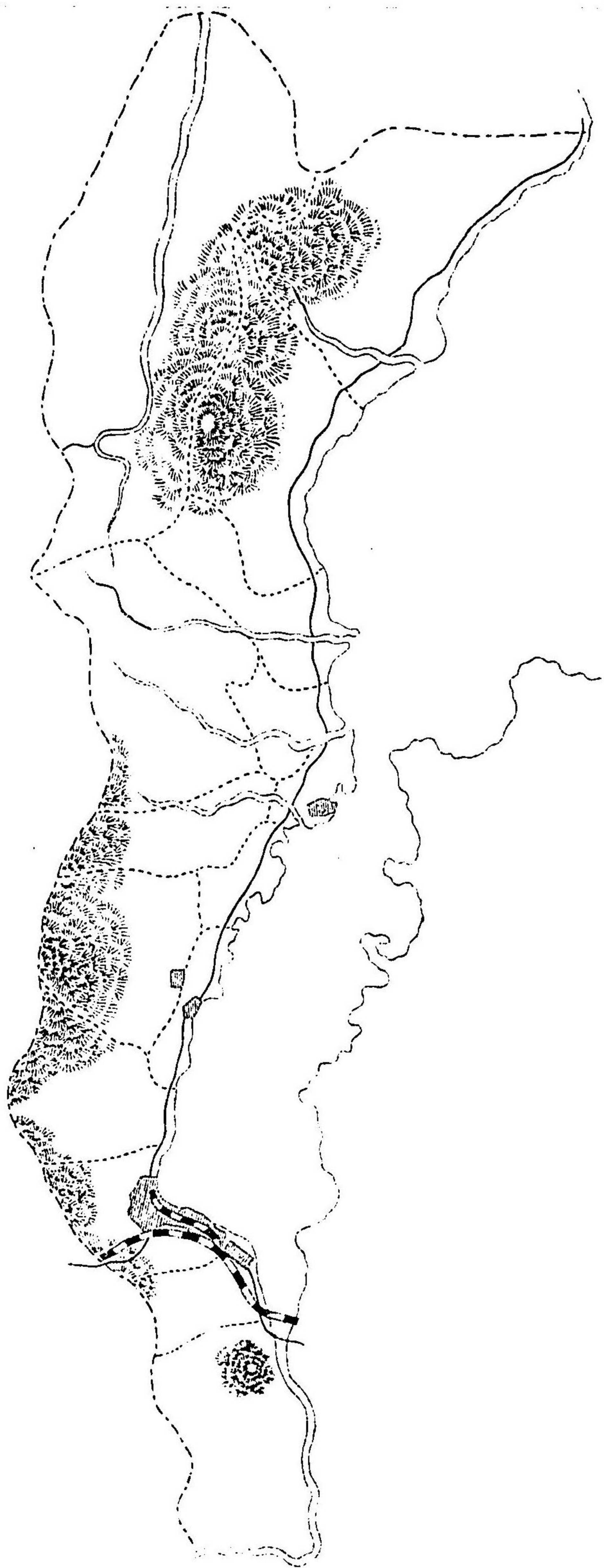
近江滋賀郡誌終

滋賀郡町村大字戸數人口表

(明治三十九年十二月末調)

町村名	大字	戸數	人口
石山	外畑、内畑、南郷、千町、赤尾、平津	六二七	三八六九
膳所	別保、中庄、膳所、錦	六一六五	六一六二
馬場	松本、東浦、元會所、御藏、湊		
橋木	坂本、新、白玉、鍋屋、南保		
上堅田	下堅田、上平藏、下平藏、甚七、肥前		
中郷	丸屋、柳、太間、玉屋、獵師		
伊勢屋	材木、九軒、高見、和泉、了徳		
上京	中京、赤唐崎、下唐崎、井筒、八幡		
大工	後在家、蛭子、葎原、鍛冶屋、境川		
笹屋	上榮、下榮、上博勞、下博勞、松屋		
葛原	布施屋、金塚、寺、上百合、下百合		
四宮	北、西、南、関寺、清水		
上関寺	下片原、上片原、大谷、一里、追分		
藤屋	船頭、鍵屋、菱屋、石川、七軒		
石橋	土橋、上馬場、下馬場、小川、上北國		
中北國	杵屋、藏橋、西山、川口、中保		
大津		五、五、六、七、三、二、二、一	



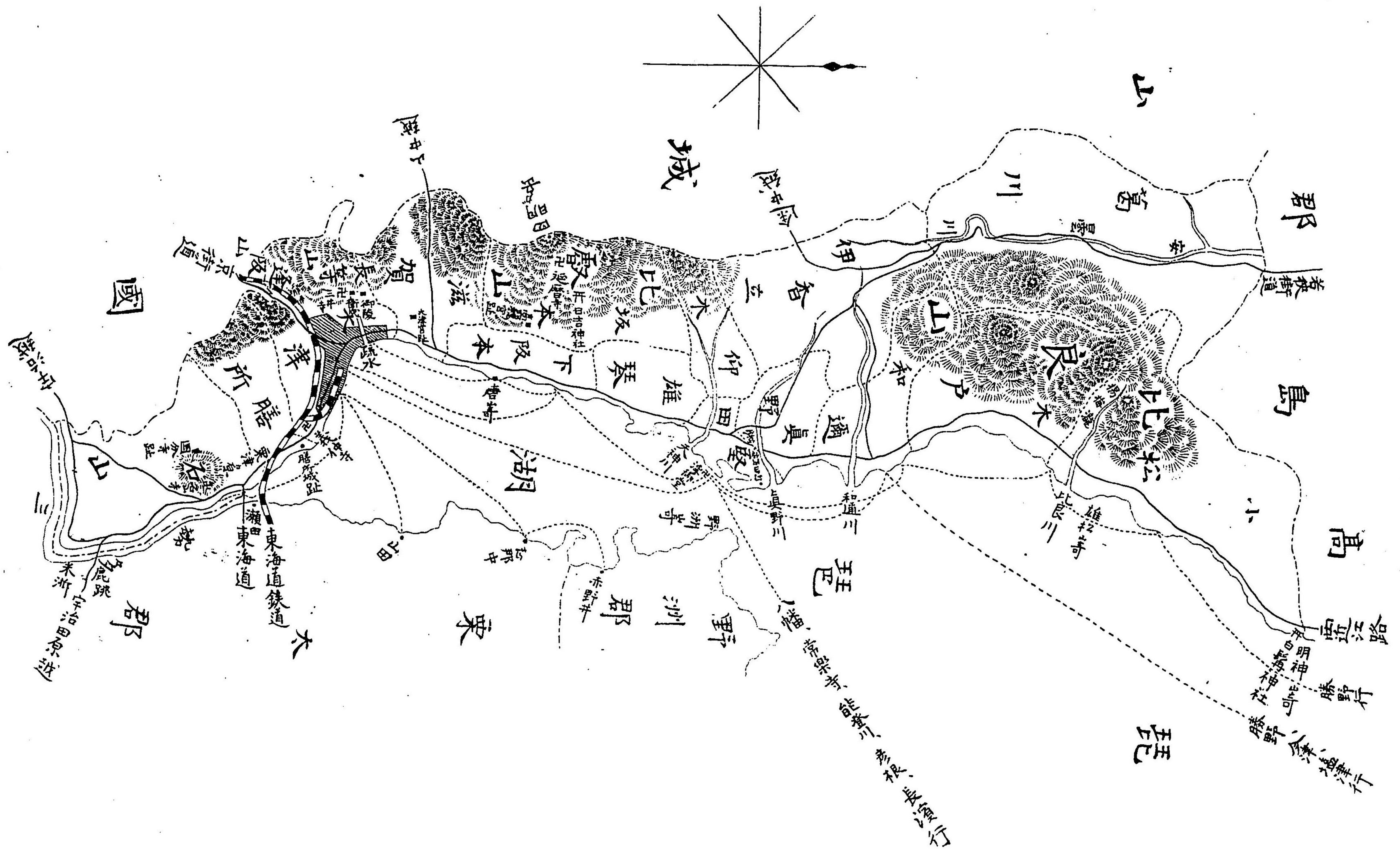


滋賀	山上、連、	錦織、	南滋賀、	滋賀里、	山中、	四五八	三〇六六
下阪本	下阪本、	比叡辻、				三九九	二、一一九
阪本	阪本、	穴太、				六四九	三、八一五
雄琴	苗鹿、	雄琴、	千野、			二九二	一、六三三
仰木	仰木、					四九〇	二、四四六
堅田	本堅田、	今堅田、	衣川、			六二四	三、四八七
真野	真野、	谷口、	家田、	普門、	大野、	三三二	一、八一七
伊香立	南庄、	生津、	向在地、	上在地、	北在地、	六一一	三、二六〇
	下龍華、	上龍華、	途中、				
和邇	小野、	今宿、	南濱、	中濱、	北濱、	五四三	二、八九八
	高城、	栗原、					
木戸	南船路、	八屋戸、	木戸、	荒川、	大物、	四七三	二、五五八
小松	北比良、	南小松、	北小松、	鶴川、		五一八	二、八九五
葛川	坂下、	木戸口、	中村、	坊村、	町居、	二六一	一、五八六
	貫井、	細川、					
合計						一三〇、〇九七	七三、八三二

シノブ、ミナリ

二





山

郡

川

城

若根街道

島

高

西江路

野行

野行

琵琶

琵琶

野

洲

郡

栗

太

東海道鐵道

東海道

津所

國

小

比叡

良

山

野

適

仰

雄

琴

坂

湖

本

加

長

寺

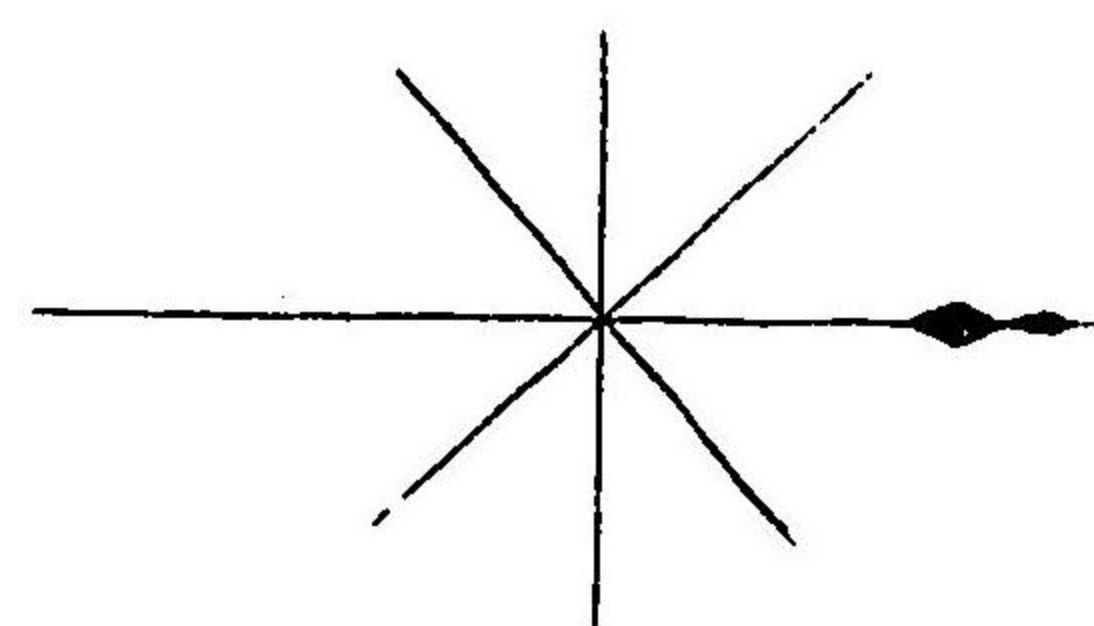
山

京

行

山

三







滋賀行

明治三十一年四月廿六日印刷  
同 年四月廿五日發行

著作者

滋賀郡教員組合會

滋賀縣滋賀郡大津町  
大字上小唐寄第八番地

發行兼  
印刷者

島林專二郎

同

專賣所

南強堂



